

カサブランカ便り「警鐘」

拝啓、時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。JICA21－2次隊の柔道SV(シニア海外ボランティア)の関 雅夫です。

2010年9月27日(月曜日)当日はカサブランカに爽やかな秋の風が吹く良く晴れた日でした。私はキリスト教の学校に七年間通っていた事もあり、昔高校時代寮生活で毎朝チャペル(或る学校とかの施設に属している教会の事をチャペル、独立している教会の事をチャーチと言います)に行って毎朝の祈りを捧げていた事を思い出しながら拙宅に程近い大きな教会に行った後、携帯電話の電話カードを買いにテレホンショップに行く途中の路上での事でした。40歳位の中肉・中背の頭の格好がマロカンスタイルと申しますか、髪の毛を短くカットした割と日本人的な男が私に「ボンジュール」とニコニコと笑顔で私に声を掛けて近付いて来ました。私も相手が「ボンジュール」と言って来たので同じく「ボンジュール」と言い、サバビエンとか何とかお互いに言い合って、相手が右手で握手を求めて来たので私も右手で握手をしました。(ここイスラム社会では左手は不浄の手と言われている為、私も気を付けて左手では人に触れない様にしております。)

それで相手がジュウドウトレビエンとかカラテトレビエンとか言うので、初対面なのに何で私が柔道関係者なのを知っているのか?と一抹の疑問を感じながらもジュウドウトレビエンとか褒められたので、私も気を良くしてメルシーブッカー等と言っておりました。私が日本人で頭の毛を短くしている為に、柔道か空手の関係者に見えたのかとあまり気にも留めませんでした。そして其の男が一寸後ろに廻ってなんか一寸右ポケットのあたりを触られた様な感触が有りましたが、褒められた事もあって、豚も煽てりゃ木に登るとか申しますが、大変気分を良くして話に夢中になっており、さほど気に留めずにその男と別れました。(後から考えるとこれは敵の策略だったと舌を巻きました。私を煽てて逆上せ上がらせ、話に巻き込んで注意を散漫にして、其の隙にポケットから財布をスリ取るという百戦錬磨のプロの技だったと思います。孫子の兵法にも有ります、謙虚な者は驕らせ云々。)



そして其の男と別れた直後先程の何か触られた様な感触が一寸気になり、まさかと思って右のポケットに手を入れた所財布が無く、「あっしまった。迂闊だった。」と思い、さてはスリ取られたのだと気が付き、直ちに今分かれたばかりの男の後を全速力で追いましたが何処にも影も形も有りませんでした。暫くその辺を探しましたが何処かの路地裏にでも逃げてしまったのでしょう全く見当たりません。してやられた感じで、あの野郎と腹が立ちましたが相手の方が犯罪のプロ、スリのプロで

関 雅夫さん（平成 22 年 10 月）

一枚上の感じで物の見事に私の財布をスリ取られてしまいました。致し方なく直ちにJICA事務所に取り急ぎ被害報告の電話を入れました。

当日、JICAの安全担当者及び私のマンションのコンソルジェ(管理人さん)と一緒に警察に行き被害届を提出しましたが、色々聞き及びますにここモロッコ王国内においてはこの様にポケット内からスリ取られたり、バッグの置き引きやバスの中での移動中に例え足の間にバッグを挟んでいたとしても一寸寝ている間にバッグを持って行かれたりすること等や、例え起きていても携帯電話で電話している最中に後ろから犯人が来て携帯電話をスパッと手から引っ手繰って、私が遣られた様に素早く逃げたりされる事等が日常茶飯事との事です。頭に来たので当日百貨店に行ってポシェットを買い、二度と財布はポケットに入れられない様にしました。モロッコ人のコンソルジェ(私の住んでいるマンションの管理人さん)にこれで如何か?と聞きましたところ、トレビエンと褒められましたが、スリ取られてから褒められたって後の祭りです。懇意になった同じマンションの住人や知り合いの人達に色々聞き及びますにフランス・イタリア・モロッコ等々世界中、まあ日本でも同じでしょうが私が被害にあった様な事は仰山有るとの由、是非是非皆様も警戒を怠る事の無き様、又不愉快な思いをさせない様に私の拙い苦い経験を他山の石としてお伝えする次第です。



今回私は相手をスリ等とは全く思わず警戒していなかった人の良さと、財布を無防備なポケットに入れて置いた為、そこに百戦錬磨の犯罪のプロに目を付けられて、巧言令色言葉巧みに接近されて鮮やかにスリ取られたと反省しております。(後から相手のスリの方が私の虚を突いた見事な攻撃で素早いヒットエンドラン敵ながら天晴れ、私より遥かに一枚上手だったとスリを褒めては拙い事ですが、感服致しました。)海外に行かれる皆様又海外に限らず国内でも、自分は狙われているとの警戒感を怠る事の無き様に又金品はパスポートセンターで売っているお金を入れられるベストを着るとか、私みたいに目の前にポシェットを付けるとか色々考え対策を講じて再び私の様に財布をスリ取られる事等無き様に御注意下さい。「各々方御油断めさるな、敵は手強いぞ」です。渡る世間に鬼は無いと言う諺も有りますが、人を見たら泥棒と思えとの諺も有ります。両方共其々程度問題で実在しているのが現状ですが、今回は後者の諺を肝に銘じて置くべきだったと頭に来た半面反省致しております。過去相手の米海軍を侮って惨敗したミッドウエー海戦の戦訓や又昔読んだ吉田満の著書「戦艦大和の最後」沖縄への水上特攻作戦に書かれてあった、戦艦大和乗り組みの若き海軍士官の「負けて目覚める、反省が無い所に進歩は無い。我々は日本の未来の為に其の魁となる、正に本望じゃないか。」との言葉等思い浮べ、今後の自他共に此の様な事態を招く事の無き

関 雅夫さん（平成 22 年 10 月）

様にとの願いを込めて拙文をお便り致す次第です。

警察署に被害届を出しに行きましたが明日の午後3時に20デルハムの印紙を持って来る様に言われ、指示通り行きましたが書類が出来て無い又来いと言われ、二日後の三回目の警察訪問で漸くスリ被害届の完了となりました。日本のJRや警察署の分秒を争う様な対応とは違ってやはりのんびりとしたものでした。警察の被害届の場所には被害に遭ったかなりの人が並んでおり、所謂長蛇の列と申しましょうか、やはり此処モロッコには私が聞き及んだ通り諸々の犯罪の多さを裏付けるものでした。それと初回はJICAの車で連れてって頂いたのですが、二回・三回目はコンソルジェのオートバイに女性が男性にオートバイの二人乗りで乗っけて貰う様な感じで、コンソルジェに抱きついてヘルメットも付けずに行きましたが、別段路上各所にかなり見受けられるポリスマンに咎められる訳でも無く、カサブランカの青い空と秋の爽やかな風と相まって大変爽快な気分で警察に行く事が出来ました。漸く被害届を出し終わり、高い授業料を払ったものだとは呟きながら警察署を後に致しました。しかし教会にお祈りに行った日にスリの被害に遭ったとは皮肉なものです。神に嫌われてしまったものか、私の祈り方に真剣さが欠けていたのか？それは神のみぞ知る事です。「救世軍」の本営の前で昔、私が運転する車が故障した時にも誰も助けに来てくれませんでした。フリードリッヒ・ニーチェは著作の中で「神は死んだ!」と宣言しております。

ともあれ、若しすられた時、私が相手のスリ行為に気が付いて、足払いかなんかで投げ飛ばして受身を知らないスリ野郎が道路上のコンクリートで頭を打って死んでいたかも知れないし、又相手が刃物を持っていて逆に私が負傷、死亡等していたかも知れない等々の事を考えると、怪我人や死人は兎も角は出なかったし、スリへの授業料かと思って諦める事にしました。

それでは皆様方も何卒・何卒、是非・是非、諸所万端ご注意され、私の様に海外で不愉快な思いをなさらない様に十二分に御注意下さい。此処カサブランカからの「警鐘」です。

各々方「敵は手強いぞ、くれぐれも御油断めさるな!!」と言う事で拙文御高覧頂きました皆様方、御注意万端抜き無く宜しくお願い致します。又お体何卒御自愛の上元気で過ごし下さい。
敬具